

# 平成13年度日本応用地質学会 研究発表会

八千代エンジニアリング(株) 小菅 芳男

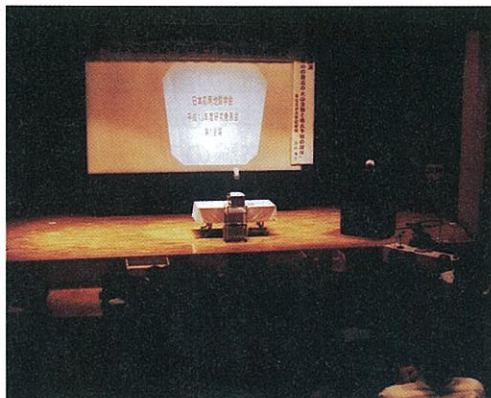
日本応用地質学会の平成13年度の研究発表会が、東北地質調査業協会、福島県地質調査業協会の協賛のもとで、10月31日、11月1日の2日間にわたり、郡山市の日本大学工学部を会場に開かれました。

## 【特別講演】

特別講演は東北大学の浜口教授が「磐梯山の最近の活動と噴火予知の現状」の題目で行いました。磐梯山は明治21年7月15日に水蒸気爆発を伴う噴火により、山体崩壊をを起こし、それによって発生した岩屑なだれによって周辺7村を埋め尽くし461名の犠牲者を出した、明治以降今日までの国内最大の被害をもたらした火山である。

最近では2000年4月以降火山性地震が頻発し、8月16日には磐梯山観測史上初めての「臨時火山情報」が出され、火山活動への注意が喚起された。講演ではこうした磐梯火山の30～50万年と言われる活動史を紹介し、最近の研究成果を披露した。

最後に火山活動の反復性を強調し、ハザードマップの整備に止まらず、行政と地域住民が一体となった火山災害の軽減に向けた一層の取り組みを求めた。

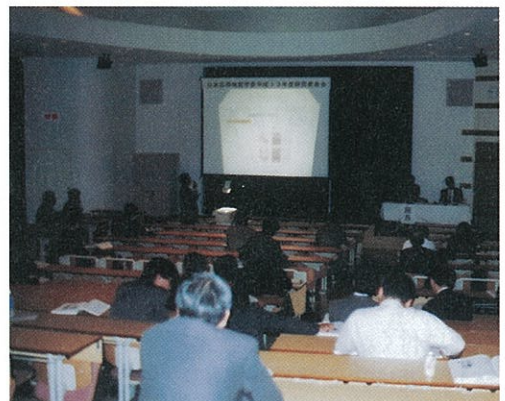


## 【一般発表】

一般発表は、2会場に分かれ①地震・活断層②環境地質③探査・試験(1)④探査・試験(2)⑤地すべりほか⑥斜面崩壊⑦水理地質構造⑧地下水の8セッションの発表であった。

発表論文数は当初90編であったが、都合で来られない発表者が1名いたため発表論文は89編となった。2会場に分かれていたため、全ての発表を聴講することは出来なかったが、隣接した会場であったため興味を持てる演題のものを自由に聴講可能となっていた。

発表は国内の事例が主であったが、外国の事例や地球外惑星の事例もありバラエティに富んでいた。また、日本語によるものがほとんどである中で、英語による発表も1編あり国際化時代を迎えていることが感じられた。



## 【特別発表】

特別発表として11月1日の昼休み時間を30分使って、鬼首陥没事故調査団による中間報告が行われた。これは7月に鳴子町鬼首で発生した、人家の庭先で陥没が起き、

自家用車1台が呑み込まれた事故である。

発表は、陥没発生の経緯、その後の調査の経緯、地質・水質調査結果、陥没のメカニズムなどについて行われた。調査の結果で判ったことは以下のようにまとめられる。

- ・ 陥没孔は今回のものだけではなく、鬼首地区の比較的狭い範囲に集中して分布している。その数は21箇所以上。
- ・ ほとんど円形であり、深いものは13.5m。
- ・ これらのことから、地下には大きな水みちが存在しているものと推定している。
- ・ 水みちの成因に関しては明らかにすることは出来なかった。



#### 【懇親会】

発表会初日の夜、学内の施設で懇親会が開催された。懇親会には当日の申し込みも多く、約130人の参加があった。会場には協賛の東北地質調査業協会、福島県地質調査業協会の会長も出席し祝辞を述べていただいた。

会場には、当東北支部10周年研修旅行のお土産であるオーストラリアワイン、東北の地酒25本が並べられ参加者はどれを飲んだら良いか迷っている様子さえあった。懇

親会には全国津々浦々から集まってきており、久々の対面もあり、大いに盛り上がった。



#### 【見学会】

11月2日(金)。初日の特別講演のテーマであった磐梯山の見学会が行われた。天気予報では下り坂の予報であったが、良いお天気に恵まれた。参加総勢27名、宇都宮大学中村教授の案内のもと、まる一日磐梯山周辺の露頭を見てまわった。

以上